

# 城北学区広報ニュース

発行：城北学区連絡協議会

第52号

令和5年4月17日

## 本年度もよろしくお願ひします



令和5年度の  
会長を務めます  
安井一丁目5の  
犬飼春男です。  
会長について6

年目になります。  
昨年は新型コロナウイルスがオミクロン株を主体とするウイルスに変わりましたが、依然として猛威が続き3年続きで行事が中止になる事態でした。「夏まつり」を楽しみにしていた地域住民のみなさんは、さぞがっかりしたでしょう。

私自身は「おたがいさま」の精神で諸活動を進めて参りました。みなさんの協力を得て、本年度も諸事業、諸活動を進めて参ります。ご協力をお願いいたします。

さて、本年度は城北小学校が開校150周年という節目の年を迎えます。学区としても記念になるものが行えたらと役員を中心に諸先輩のお知恵を借りながら準備を進めております。小学校としては10月28日に「記念式典」を挙げる運びになっております。

学区のみなさんも城北小学校をますます支えていただき、子どもたちの健全育成にお力をお貸しくください。

今年の行事として、8月19日に「夏まつり」、9月18日「敬老会」、1月8日「成人式」(成人を祝う会)を三大大行事として位置づけております。どの行事も魅力あふれるものになるよう自治会長、各種団体、役員で知恵を絞り、みなさんの協力を得て成功させたいと思っております。重ねてご協力をお願いいたします。

### 自治会長さんが変わりました

成願寺2丁目東

蔡 裕子さん

川中町

黒瀬 俊範さん

1年間、よろしくお願ひします。

### ゴミセン管理人募集中

夜の時間帯(6時から9時)の管理人を募集しています。

火曜日～土曜日(利用者がいない場合はありません)に余裕のある方はないでしょうか。

「やってもいいよ」と言う方は、ゴミセン管理人の宮澤までご連絡をください。916-5322(火曜日から金曜日の日中はおります)

は感染症の五類相当という扱いに変わります。しかし、完全にウイルスがなくなつたわけではありません。高齢者や基礎疾患のある方はワクチン接種が引き続き無料で接種できます。ご自身の体調をいつも考え、「3密」を避け、必要ときにはマスクをするようにしてください。学区のゴミセンについては利用者に高齢者が多いことからマスク着用をお願いします。最後になりましたが、本年度も城北学区5千世帯の安心、安全のために役員一同力を合わせてまいります。どうかよろしくお願ひします。



## 城北学区避難所運営訓練

3月5日（日）城北小学校特活室において「避難所運営訓練」が行われました。参加対象は自主防災責任者（自治会長）でした。約30人が参加しました。

北区役所総務課の防災担当者が避難所運営に関して説明をした後、実際に避難所に避難民がきたことを想定してのシミュレーション訓練（HUG訓練）を1時間しました。病気を抱えた人、ペットを連れてきた人、小さなお子さんを抱えた人、外国人など様々なケースにどのように対応したらよいか4つのグループに分かれて、話し合いをしながら対応しました。始め、地域別に避難所（想定訓練では体育館）を区分けして考えていたのですが、地域に偏りが見られ、健常者、災害弱者、外国人、病状のある人に分けた方がいいのではないかとという貴重な意見が出てきました。今後の訓練の参考になる意見だと思いました。

HUG訓練の後、体育館に移動して、特活室からの机の移動、受付の設営、ゾーン分けについて実際にやってみました。机の運搬もひっくり返して運んだ方が軽く感じられることや避難をしてきた人で避難所運営をして行くことを説明しました。



あっという間の3時間でした。濃密な3時間といっても良いかもしれません。災害に際しては、まずは身の安全を確保すること、落ち着いて行動すること、家族で避難行動について話し合っておくこと、災害備蓄品について用意しておくことなどいつ来るかわからない地震に備えるという考え方から、いつか来る地震に備えるという考え方に変えていくことを改めて痛感しました。



地域の特性をふまえた避難所運営を今後考えていくことが求められます。

避難所に来るといことは最終的な判断といえます。体育館という劣悪な環境での生活を余技される実際を想定すること、避難所独自に運営組織をつくるのが今後の避難所運営訓練では必要だと思います。独自の運営組織とは、避難所にやってくるのは自治会長や学区役員とは限りません。まず誰かが施設管理責任者にならなくてはなりません。その人の周りにサポートしてくれる人を集めなくてはなりません。健常者の中から声の大きな人、身体が大きな人、医療従事経験者、ボランティア活動経験者に手を挙げてもらい、組織化への協力を要請します。毎日、集まって点検活動を行います。また、必要な場合にはスタッフを入れ替えたり、増員を図ります。こうしたことを想定した「避難所運営訓練」が今後必要になってくると思います。

## トルコ・シリア地震義援金



「ありがとう」

赤十字の人の話では、寄せられたみなさんの善意に対して現地の人々は「ありがとう」という日本の言葉で応えているそうです。総額26万円を義援金として贈呈しました。

義援金を手渡す犬飼会長（城北コミセンにて）